

持続可能な重層的支援体制を推進（福井県坂井市）

【資料2-3】

福井県坂井市

人口 90,217人
世帯数 32,534世帯
面積 209.67km²
高齢化率 28.7%
2021.9.1現在



○既存の仕組み（専門性）を活かしつつ、それぞれが役割を少し広げ「のりしろ」を出し合うことで狭間を埋め、断らない・取り残さない、持続可能な地域共生社会の実現を目指す。

○地域住民主体の活動を支援し、ふくしの会（地域福祉推進基礎組織）やまちづくり協議会など身近な拠点において、体制整備を推進。

重層的支援体制整備事業

◎包括的相談支援事業

○既存の仕組みを活かし、どの相談窓口においても、住民から相談を受け止められるよう、各分野の相談支援機関が断らない相談支援を実施するとともに、**多機関協働事業と一体的に整備**。

◎多機関協働事業

○複雑・複合課題があった場合、**相談支援包括化推進員（多機関協働事業者（直営））**が、各相談支援機関から相談を受け、各機関同士のコーディネーターとして調整（個別ケースは持たない）、各機関が同一の認識のもと、役割を分担するための会議（さかまる会議）を開催。

◎アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

障がい系の社福法人に委託し、**福祉総務課に支援員を配置**。
・義務教育終了後の若者であって、何らかの困難を抱えている者・世帯
・障がい受容がない者への信頼関係の構築に向けた丁寧な働きかけ等、既存の機関だけでは関わりにくいケースにつながり、日頃からの重層的支援体制のもと各相談支援事業所と良好な関係性を構築しつつ適切な機関へつないでいく。

◎参加支援事業

○社会福祉協議会に委託し、**福祉総務課および社会福祉協議会にそれぞれ参加支援コーディネーターを配置**。包括的相談支援事業、多機関協働事業、アウトリーチ事業で把握した個別ケースに介入し、地域共生のまちづくり事業と協働しつつ、参加支援をコーディネート。

【事例】アウトリーチ支援員から参加支援コーディネーターにつなげた、発達障がいかつ狭義のひきこもり状態にある方の参加を支援するため、地域のボランティア団体に働きかけ持性や環境について勉強会等を企画、本人と調整のうえ、ボランティア活動を支援。



◎地域共生のまちづくり事業（地域づくり事業）

○社会福祉協議会に委託して、**コミュニティソーシャルワーカー（CSW）**を配置

- ・地域住民による見守り、発見、つなぎのセーフティネット体制づくりを支援。
- ・『ふくしの会（民生委員・福祉委員・区長で構成）』の見守り強化と地域の課題把握から課題解決を試みる手法を検証。そのうえで、まちづくり協議会やまちづくり団体等との連携方法などを検討。

坂井市地域共生社会推進会議

本会議において、各分野の体制と分野を横断する重層的支援体制を一体的に進捗確認することで、**各分野別の施策が幾重にも重なった体制を推進**

